第3章 歴史的文化的環境の確保

1 歴史的遺産（目標の項目）

目標：古都鎌倉の歴史的遺産を保全・活用し、世界遺産に登録されることをめざします。

目標達成するための指標

世界遺産への登録	市の準備目標年度	平成19年度
史跡の公有地化	平成27年度(2015年度)までに	
	235,022.30m ²	市街化区域で100%

歴史的風土その他歴史的、文化的遺産を鎌倉の環境を形成する大きな要素のひとつとしてとらえ、これを保存し、活用することにより伝統と文化の香り高い歴史的、文化的環境を確保しています。

世界遺産委員会等における動向を勘案しながら、世界遺産登録に向けた準備を進めています。

史跡の公有地化取得面積は、158,423.94m²、取得率は67.40%です。

（1）歴史的遺産とこれをとりまく自然環境の保全

歴史的風土保存区域・特別保存地区の指定

< 都市計画課 >

古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法(昭和41年法律第1号)は、『わが国固有の文化的資産として国民が等しくその恵沢を享受し、後代の国民に継承されるべき古都における歴史的風土を保存するために国等において講ずべき特別の措置を定め、もって国土愛の高揚に資するとともに、ひろく文化の向上発展に寄与すること』を目的としています。平成19年度末現在、歴史的風土保存区域は、朝比奈地区約142ha、八幡宮地区約308ha、大町材木座地区約167ha、長谷極楽寺地区約207ha、山ノ内地区約158haの合計約982haが指定され、歴史的風土保存計画において区域内の行為が規制されています。また、歴史的風土保存区域のうち、枢要な部分を構成している13地区約573.6haについては、歴史的風土特別保存地区に指定されています。

[歴史的風土特別保存地区の指定面積及び買入面積]

歴史的風土特別保存地区内において行為許可を得ることができない場合、その土地の所有者は県に買い入れの申し出を行うことができます。平成19年度は138,088.90m²が買い入れられました。

平成19年度末現在の歴史的風土特別保存地区の指定面積及び買入面積は、表3-1のとおりです。

表 3-1 歴史的風土特別保存地区の指定面積及び取得状況

歴史的風土特別保存地区名	指定面積(ha)	平成19年度買入面積(m ²)	取得面積累計(ha)
建長寺・浄智寺・八幡宮	約172.0	19,800.24	約29.3
永福寺跡	約5.7	—	—
護良親王墓	約2.0	—	約0.8
瑞泉寺	約119.0	14,560.50	約41.8
浄妙寺	約8.1	—	約1.2
妙本寺・衣張山	約67.0	52,188.34	約12.3
大仏・長谷観音	約110.0	23,861.47	約31.6
寿福寺	約18.0	—	約1.7
円覚寺	約29.0	3,805.39	約0.4
朝比奈切通し	約7.0	—	—
名越切通し	約20.0	14,600.14	約1.7
極楽寺	約9.8	9,272.82	約2.2
稲村ヶ崎	約6.0	—	約0.1
合 計	約573.6	138,088.90	約123.1

(2) 歴史的遺産の指定の推進

文化財保護法等に基づく文化財(史跡等)の指定

<文化財課>

中世の一時期にわが国の政治・文化の中心として栄えた鎌倉市は、文化財の数も多く、「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」、「神奈川県文化財保護条例(昭和30年神奈川県条例第13号)」、「鎌倉市文化財保護条例(昭和35年条例第7号)」に基づき指定された文化財は、平成19年度末現在、表3-2に示すとおりです。また、国登録有形文化財として、文学館本館及び国宝館本館が登録されています。

表 3-2 指定文化財件数一覧

単位：件

種 別	国 宝	国指定	県指定	市指定	合 計	
有形文化財	建 造 物	1	21	13	31	66
	絵 画	4	29	9	45	87
	彫 刻	1	36	26	78	141
	工 芸	6	22	14	25	67
	書 跡	3	46	2	19	70
	典 籍	—	—	—	4	4
	古 文 書	—	8	—	7	15
	考古資料	—	4	2	10	16
	歴史資料	—	—	—	2	2
無形文化財	—	—	—	2	2	
民俗文化財(資料)	有 形	—	—	2	21	23
	無 形	—	—	1	—	1
記 念 物	—	30	2	9	41	

	名 勝	—	3	—	—	3
	天然記念物	—	—	1	33	34
合	計	15	199	72	286	572

(3) 文化財の保護・活用

国指定史跡の公有地化

< 文化財課 >

国指定史跡である永福寺跡、鶴岡八幡宮境内(御谷地区)、北条氏常盤亭跡、東勝寺跡等については公有地化を進めており、平成19年度末現在の取得状況は、表3-3のとおりです。

表 3-3 国指定史跡の公有地化の状況

単位：m²

史跡名	指定年月日	指定面積	取得計画面積	既取得面積	取得率
永福寺跡	S41. 6. 14	86,008	70,833.08	59,570.92	84.1%
鶴岡八幡宮境内 ※1 (御谷地区)	S42. 4. 24	193,345.51	31,107.41	28,929.73	93.0%
	計画外面積→		4,405.21	4,405.21	100%
亀ヶ谷坂	S44. 6. 5	32,925.16	3,666.62	3,666.62	100%
北条氏常盤亭跡	S53. 12. 19	115,033.28	111,878.50	49,255.24	44.03%
名越切通 ※2	S41. 4. 11	45,835.00	3,291.00	3,291.00	100%
東勝寺跡	H10. 7. 31	50,132.18	8,983.29	8,448.03	94.04%
朝夷奈切通 ※3	S44. 6. 5	83,575.87	857.19	857.19	100%
合計	—	—	235,022.30	158,423.94	67.40%

※1 追加指定/平成17年8月29日

※2 追加指定/昭和56年10月13日・昭和58年11月26日

※3 追加指定/平成15年8月27日・平成19年7月26日

文化財保護法に基づく埋蔵文化財の発掘調査の状況

< 文化財課 >

埋蔵文化財については、市内の広い範囲にわたって多くの埋蔵文化財包蔵地の存在が知られており、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代の遺跡が発掘されています。平成19年度の国庫補助に基づく緊急調査の実施状況は、表3-4のとおり、平成18年度からの継続も含めて21件で、調査面積は995.05m²でした。

表 3-4 国庫補助に基づく緊急発掘調査

遺跡名	所在地	面積(m ²)	遺跡名	所在地	面積(m ²)
若宮大路周辺遺跡群	小町一丁目	216.00	今小路西遺跡	由比ガ浜一丁目	40.00
材木座町屋遺跡	材木座二丁目	45.00	今小路西遺跡	由比ガ浜一丁目	15.00
台山遺跡	山ノ内	56.00	若宮大路周辺遺跡群	大町一丁目	16.00
大楽寺跡	浄明寺四丁目	45.00	大倉幕府周辺遺跡群	雪ノ下	26.25
由比ガ浜中世集団墓地遺跡	由比ガ浜二丁目	79.80	勝長寿院遺跡	雪ノ下四丁目	20.00
北条小町邸跡	雪ノ下一丁目	51.00	覚園寺旧境内遺跡	二階堂	64.00

名越ヶ谷遺跡	大町四丁目	24.00	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目	37.50
今小路西遺跡	由比ガ浜一丁目	112.00	若宮大路周辺遺跡群	雪ノ下一丁目	25.00
若宮大路周辺遺跡群	小町二丁目	10.50	大倉幕府跡	雪ノ下三丁目	25.00
下馬周辺遺跡	由比ガ浜二丁目	12.00	大倉幕府周辺遺跡群	二階堂	54.00
玉縄城跡	植木	21.00			
				合 計	995.05

文化財の維持・補修

<文化財課>

国、県、市では、指定文化財の修理等について補助を行っています。平成19年度の文化財修理補助事業は、表3-5のとおりです。

表 3-5 平成19年度文化財修理補助事業

補助対象文化財	事業内容
鶴岡八幡宮上宮本殿、幣殿及び拝殿ほか2棟	上宮本殿、幣殿及び拝殿と回廊、末社武内社の屋根、彩色の修理
紙本墨書新編仏法大明録(財団法人松ヶ岡文庫)	本紙のカビ痕、汚れ、シミ、虫損、墨・朱墨の剥落止めの修理
円覚寺開山箆笥収納品(円覚寺)	袈裟の布地、漆器、団扇等の修理
友雲土思、月江正印墨蹟、無等恵融墨蹟(財団法人常盤山文庫)	本紙の横折れ、虫損、欠損箇所の修理
紙本淡彩送海東上人帰国図(財団法人常盤山文庫)	本紙の横折れ、亀裂の修理
木造阿弥陀如来及両脇侍立像(光触寺)	漆層の剥落止め、漆層の断紋を安定させる修理
英勝寺山門(英勝寺)	再建するための部材の清掃、調査、載荷試験を実施
シロシダレ(鶴岡八幡宮)	大枝の切除、空洞部分の木炭充填、殺菌剤塗布
ビヤクシン(寿福寺)	枝幹の切除と整形、防腐処理、土壌改良、殺菌剤塗布
ビヤクシン(浄光明寺)	根部の表層保護、土壌改良、枝幹の切除と整形、防腐処理、殺菌剤塗布
庚申塔(寛文十二年銘)(五所神社)	基盤石垣の破損、亀裂の修理
イチョウ(荏柄天神社)	枝折れ部分の切り返し剪定、腐朽部分の剪定、空洞・弱枝の剪定

また、毎年度4月1日における市指定文化財の所有者、管理者などを対象にして、指定文化財の通常的な維持管理に係る奨励金を交付しており、平成19年度の交付件数は176件でした。

さらに、文化財を災害から守るため昭和47年に発足した鎌倉文化財防災連絡協議会が、年3回防火防災設備保守点検等を実施しています。なお、この協議会は国・県・市の指定文化財を所有する24社寺1法人で構成されています。

文化財の保護についての普及、啓発の推進

<文化財課>

市教育委員会は、市内にある文化財を紹介し、郷土への理解を深め、文化財愛護精神の啓発を図るため、「文化財めぐり」を実施しています。平成19年度は、表3-6のとおり2回実施しました。

表 3-6 平成19年度文化財めぐり実施状況

単位：人

開催日	場 所	内 容	参加人数
平成20年2月20日	長谷子ども会館、寸松堂	国登録有形文化財（建造物）鎌倉市長谷子ども会館洋館、寸松堂主屋を見学	39
平成20年3月22日	史跡永福寺跡	国指定史跡永福寺跡発掘調査現場を見学	220

（４） 世界遺産への登録

保存管理計画策定事業

<世界遺産登録推進担当>

世界遺産への登録準備として、「国指定史跡朝夷奈切通」、「国指定史跡名越切通」、「国指定史跡亀ヶ谷坂」、「国指定史跡仮粧坂」、「国指定史跡大仏切通」、「国指定史跡仏法寺跡」、「国指定史跡一升栴遺跡」の保存管理計画を策定するとともに、「国指定史跡東勝寺跡」、「国指定史跡寿福寺境内」、「国指定史跡浄光明寺境内・冷泉為相墓」、「国指定史跡極楽寺境内・忍性墓」、「国指定史跡円覚寺境内」の保存管理計画を策定に着手し、基礎資料となる地形図等を作成しました。

さらに、「極楽寺境内・忍性墓」の国指定史跡追加指定・名称変更申請及び「瑞泉寺境内」、「寿福寺境内」、「永福寺跡」、「朝夷奈切通」、「名越切通」、「極楽寺境内・忍性墓」の国指定史跡追加指定申請を行いました。

世界遺産条約登録事業

<世界遺産登録推進担当>

啓発事業として、前年に作成したリーフレット「武家の古都・鎌倉」を増刷しました。また、神奈川県教育委員会との共催による世界遺産登録啓発ポスターの募集事業や市民活動団体、宗教関係団体、商工関連団体、学校関係団体、行政等が協働する「鎌倉世界遺産登録推進協議会」に参加し、会報「武家の古都・鎌倉ニュース」や「武家の古都・鎌倉マップ」の発行、シンポジウム「外国人が見た鎌倉」やワークショップ「世界遺産に鎌倉を」の開催、「武家の古都・鎌倉塾」の開講など様々な啓発活動に取り組みました。

さらに、登録候補遺産が所在する横浜市、逗子市及び広域行政を担当する神奈川県との連携を強化して事業の推進を図るために、「神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会」を設置し、推薦書原案の作成等に取り組みました。